

市内の空き家を活用してシニア世代・障がい者の労働参加拡大 ～共生社会かまぐらの実現へ～

自治体名：鎌倉市

地域課題：「働くまち鎌倉」「住みたい・住み続けたいまち鎌倉」を実現する

アイデアの内容

鎌倉市では少子高齢化が進む中、シニア世代の雇用の拡大が急務



シニア世代だけでなく障がい者の就労も支援したい…。



市内の空き家活用の課題・地域コミュニティと結びつけて考え、

空き家を再利用し、テレワーク・コワーキングスペースや
地域住民の対話スペースなどが共存する複合施設をつくろう！

シニア世代・障がい者・地域住民がそこで働き交流をする。



6つの要素が共に、共生社会の実現に向かう！

例) NPOが空き家を利用した施設の運営、市民はコワーキングスペースに参加、行政は各要素間の情報共有の支援を行うなど。

アイデアの理由

平成28年現在、鎌倉市の高齢化率は30.9%。今後も増加が見込まれる。

市のアンケートによると、**就労意欲のある高齢者は59.4%**存在するため、シニア世代の労働力を課題解決に活用。

同アンケートでは、シニア世代が就労する場合に重視する条件の上位が

「**場所が通いやすいこと**」(61.3%) 「**日数・時間の融通が利くこと**」(53.3%)

であったため、シニア世代の生活圏に近い鎌倉市内の空き家を活用すべき。

「働くまち鎌倉」「住みたい・住み続けたいまち鎌倉」を実現するためには、障がい者の雇用も支援すべきと考えた。

平成29年現在、市内の障がい者手帳所持者は7000人を超えているため、その層へのアプローチも課題解決につながる。

障がい者には、廃家電の手分解の仕事を提供（千葉県印西市(株)本埜共進の事業を参照）。

シニア層には、テレワークの他に簡素な洗車サービスや郷土玩具づくりなどの仕事も提供。

アイデア実現の流れ

○実現までの大まかな流れ

	空き家	アプリ開発	シニアの就労	障がい者の就労	その他
1年目	空き家を探す相談を鎌倉市に	コミュニティの運営をスムーズにするためのICT化。文教大学の情報学部へ協力のお願い	シニアのための、わが町の便利屋さんの実施に向けた内容の確立	障がい者の関係者への聞き取り、印西市の会社への視察	
2年目	空き家の具体的なリストアップ、コワーキングスペースの立ち上げ・シニア世代にコミュニティの場を提供、テレワークの開始	鎌倉の地域アプリ「かまサポ」の立ち上げ	シニア世代への説明会、就労の呼びかけ	関係者の手分解の廃家電リサイクル現場の視察	事業者・NPO法人の資金作りのための「まちづくりクラウドファンディング」の立ち上げ
3年目	コワーキングスペースの運営・(シニア世代またはNPOによる運営)	地域アプリ「かまサポ」の運営開始	シニア世代の「わが町の便利屋さん」の運営開始	障がい者の仕事始め、職場の確保。運営の開始	事業者・NPO法人の具体的な運営の開始

・少子高齢化が進む中で鎌倉市を成長させていくには、意欲のある高齢者や障がい者のコミュニケーションの場が必要。

⇒つまり、市内の空き家の提供。

・就労支援や地域コミュニティのつながりを支援するためにアプリの開発も検討。

⇒作成は文教大学情報学部と協力